



NPO法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

ニュースレター No.38

“すまセン”の窓口ではスタッフが10ヶ国語で相談を受け付けています。
 アパート探しの内見や契約後の問題発生など必要に応じて通訳を派遣します。
 お気軽にお尋ねください。

ごあいさつ

新緑の季節を過ごし、初夏の陽光がまぶしい季節となりました。時の流れは早いものでコロナ禍から3年という月日が経ってしまいましたが、いまだおさまることなく第9波を迎えているとのこと。この災いを乗り越え、会社や店舗なども動き出しはしましたが、ここきて営業停止、閉店などという言葉が度々耳にするようになりました。コロナ特例等の公的支援や貸付を受けたが、返済できるほど経営回復が見込めず苦しい思いをしている方々も少なくありません。住み慣れた民間賃貸住宅から公営住宅への住み替えを希望する人たちが今までになく増えているのもこう言った背景があるからではないかと思えます。また、収入の見込みが立たず生活保護申請を希望する方々も急増しています。仕事を確保することは大事なことです。住まいや生活が保障されてこそ新しい仕事へとつながることができるのだと思います。すまセンがコロナ後の住まいや生活を支えなくてはならない場面はこれからさらに増え続けると思います。困窮者や外国人の民間賃貸住宅への入居が難しいと言われる中、私たちはこれからも不動産業者を始め行政や社会福祉法人、NPOなどとの連携を深めながらコロナ最後の危機を乗り越え、外国人や生活に困窮を抱える人たちなど誰もが安心して暮らせる環境を作るために努力を重ねて行きたいと思えます。



かながわ外国人すまいサポートセンター 理事長 斐安



◆連載◆ コロナを通して見えたもの ①

すまセンのスタッフの友人や親せきの方のお話(実体験)をご紹介します

世界の国々がウィズコロナ政策を取る中、独自のゼロコロナ政策を打ち出していた中国では、長いロックダウン期間をどのようにして乗り越えたのでしょうか？

マンションに住んでいる友人の話では、マンションの入居者が登録しているグループラインで入居者同士が連絡を取り合っていたそうです。本来このグループラインは、マンション管理会社のお知らせを受信するために入居者が登録したのですが、ロックダウン中は悩みを相談したり、辛い気持ちを吐露したり、また異業種の方と情報交換するために使われたそうです。ここで精神的なつながりを持つことができ、今まで全く交流のなかった入居者同士の絆が深まったそうです。入居者同士お互い顔を合わすことはできないため、自分の使わない物などは廊下に持って行き、欲しい物はそこから持って帰るという物々交換もしていたそうです。

また、日本から中国に留学している方の話では、中国政府からの支援物資で足りない物は、マンションの入居者が手分けをしてネット注文をしていたそうです。これは早打ちが得意な若者が担当し、マンションの入居者たちで戦利品を分け合ったとか。そして、なんと中国らしくて思わず笑ってしまうのは、政府からの食糧支援物資の中には、なんと羽をむしり取られたばかりの鶏が一羽入っていることもあったそうです。ビックリですよ(笑)

ちなみに、この物々交換の一番人気は、ワインとコーラでした！日本だったら何になるのでしょうか？！



2023年度総会が開催されました。

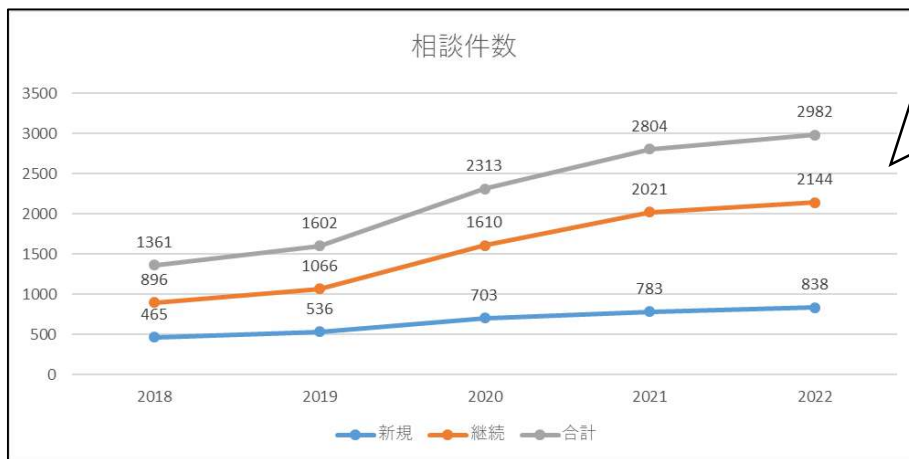
2019年から続いたコロナ禍が一段落して、人の動きが活発になってきました。去年度まで書面開催となっていた会員総会も、今年度は4年ぶりに対面での開催となりました。(総会後に開いていた茶話会はもう少しお預けですが…)

横浜YMCAの9階にあるチャペルをお借りして開催した総会には、来賓や列席の方々、会員を含めて約30名ほどが参加しました。懐かしい顔ぶれだけでなく、初めて参加した新会員の方、新しい言語スタッフなど、にぎやかな雰囲気の中、2022年度の事業報告や会計報告、2023年度の事業方針、予算案まで、滞りなく審議し承認されました。また、長年理事として関わり、事務局局長もされていた武田元理事と長澤元理事の表彰も行いました。

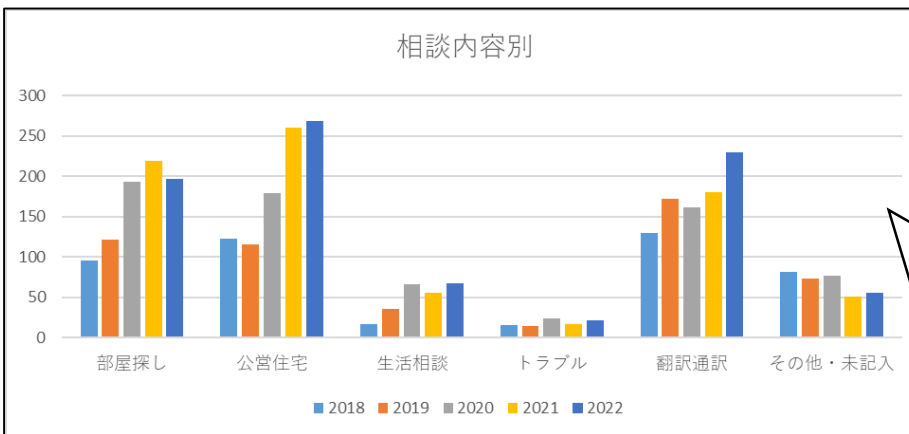
総会後の自己紹介では、参加者全員が「日ごろの活動について」、「目指す居住支援の在り方」や「今後の事業の方向性」など熱く語り、2023年度も共に連携しながら、外国人や生活困窮者の居住支援に取り組んでいくことを確認できた意義深い時間でした。



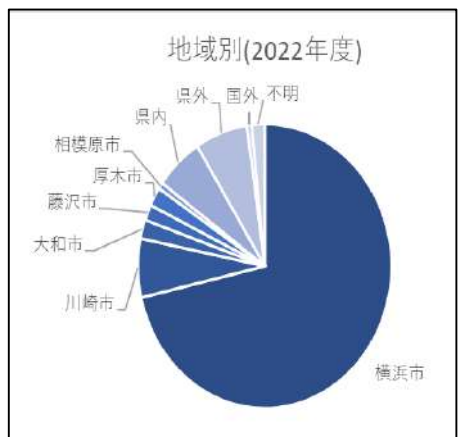
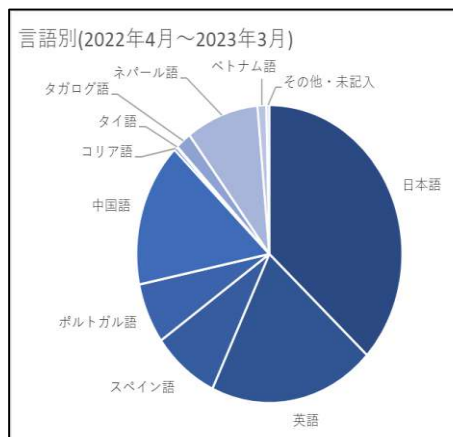
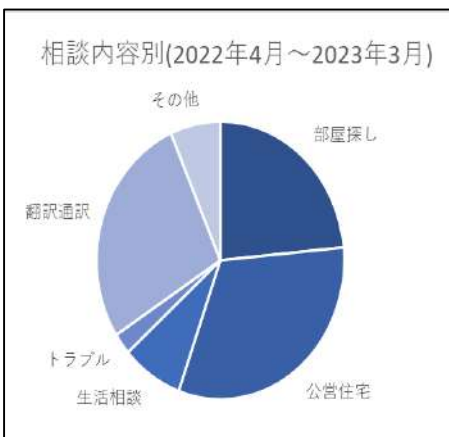
◆ 2022年度 事業報告から抜粋 ◆ *②～⑤は新規のみ



② 2018～2022年度の相談件数
(下から「新規」「継続」「合計」)
2020年度以降、全体的に増加傾向だが、特に「継続」相談が増加していることが分かる。一人の相談者の相談回数が増えており、抱える課題の複雑化に伴い、解決に向けた相談や対応の長期化傾向が見て取れる。



① 2018～2022年度の相談内容
2020年度以降、公営住宅希望者が急激に増加、コロナ禍の影響が長引いていることが分かる。また、グラフには反映されていないが「部屋探し」や「公営住宅」で相談に来た後、そのまま生活相談につながる場合が多く、不動産店や区役所、年金事務所などへの同行件数は年間140件以上に上る。



神奈川県住宅供給公社と「住まいのルールブック」を作成しています！

県公社賃貸住宅は県内に13,232戸(2023年4月時点)あります。公社賃貸は、公営住宅やUR賃貸と同じように条件を満たせば外国人も入居できます。民間賃貸住宅のように「外国人だから」という理由で断られることはありません。ですから県公社賃貸には、単身者からファミリー世帯まで約380世帯の外国人が暮らしています。その国籍は多様ですが、特に、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、ペルー、ブラジル、ボリビアなどの出身者が多いです。お互いに言語も違うので団地自治会や近隣の入居者同士でコミュニケーションがうまくとれない場合があり、管理担当者に苦情の電話が入ることも多々あったようです。外国人住民とともに、互いに気持ちよく生活していくためにはどうすればいいのか…、そのヒントを得るために管理担当者の方が参加したのが、すまセンが神奈川県居住支援協議会から委託を受けて実施した「外国人の住まいと生活」研修会でした。研修会の後、同じ団地に住む外国人住民に、生活のルールを伝えるにはどうすればいいのか…と管理担当者から相談が入り、まずは住まいのルールブックを多言語で作成する運びとなったのです。

最初にすまセンは、県公社と住まいのルールブック作成にあたって、入居している外国人と日本人は対等の立場であること、一方的に日本の文化やマナー・ルールを押しつけないことを確認しました。

しかし住まいのルールが出身国によって違うのも事実です。教えてもらわなければわかりません。外国人からすれば自分の国のやり方や常識で生活しているだけなのに、他の入居者から「トラブルだ」「迷惑だ」と言われてしまうことは往々にしてあります。お互いに誤解なく気持ちよく暮らせるように、日本での住まいのルールをわかりやすく伝え、そのルールの背景にある理由を説明して、誰もが納得できるルールブックを作ることが大切だと考えました。また日本の「自治会」に相当する住民組織が存在しない国が多いので、なぜ自治会に加入するのか、その活動や役割を説明する必要がありました。

翻訳のもととなる日本語版の作成では検討すべきポイントが幾つかありました。①短い文章で、わかりやすい日本語を使う。必要に応じて箇条書きにする。②日本語は婉曲な表現が多いが、外国人にはYES/NOで明確に伝える。③「静かにして下さい」など抽象的表現ではなく、どのような生活音に気がつけたらよいのか具体的に示す。④注意点や禁止事項だけではなく、その理由やリスク(例えば漏水による損害賠償の可能性)を伝え、あわせて困った時の相談先や対応方法を示す。⑤「暮らしやすい」など日本語でよく使う言葉でも、外国語への翻訳が難しい言葉は使わない。などなど、いろいろありました。なかでも悩ましかったのは「廊下やバルコニーでの喫煙はご遠慮ください」をどう翻訳するのか? 本音はNOと言いたいけれど禁止規定がないので、なんとか察して欲しいというのは外国人には伝わりません。

本来は当事者である外国人の意見も聞きながら作成できれば良いのですが、外国人といっても団地にはいろいろな国の人があります。そこで、すまセンの本領発揮です! すまセンならば、12カ国語の翻訳を担当する外国人スタッフと個別に打合せしながら、その国の人にとって、よりわかりやすく意図が伝わるように翻訳することができます。今後も日本の団地で暮らす外国人は増えていくでしょう。出身国もさらに多国籍化していくと思います。団地では、小さな子供がいる家族や高齢者など生活のスタイルや時間帯が異なる人びとが隣り合って暮らしています。今回の県公社との協働作業が、団地内でコミュニケーションが生まれるきっかけとなり、住民どうしの相互理解が深まる一助となれば幸いです。(理事 稲葉 佳子)



2023年度会費をお納めいただいた方々(2023年6月15日現在・順不同)



◆個人

【正会員】竹口 秀夫/水田 秀子/西村 明夫/星野 毅/笠間 和歌子/三浦 保之/安松 肇/山田 貴夫
長田 誠/月出 正弘/邊 佳枝/金井 信高/稲村 厚/斐 安/柳原 絵里子/鳥山 洋/柳 晴 実/森川 洋子
阿部 孝子/永井 愛子/孔 琦/高橋 修/高村 文子/木下 正和【賛助会員】小儀 晃/今泉 好夫/高原 晶子
明星 圭介/山成 健治/ファミ・ルー・アンジー/佐々木 利和/磯田 ニーダ

◆法人

【正会員】株式会社 おかだハウジング/豊一管財株式会社/徳永リアルエステート(株)/株式会社 杉浦商事
有限会社 第一産業/株式会社 むげん/株式会社 昌栄/株式会社 石川商事/有限会社 エスク
徳増不動産株式会社/株式会社 秋津不動産/オーキッド株式会社/株式会社 川崎中央プランナー
有限会社 寿不動産/株式会社 チェリッシュ/(有)セントラルホームズ/株式会社 クレア/エス・ケーホーム(株)
株式会社 アイホーム/居住支援法人 川崎ロイヤル株式会社/(有)松中一級建築士事務所
株式会社 水島商事/(有)ラディアン・ワークス/株式会社 日本エイジェント/公益財団法人 大和市国際化協会
特定非営利活動法人 ワークスコープ【賛助会員】有限会社 東郊住宅社/中高年事業団 やまて企業組合

《翻訳・通訳》

翻訳・通訳の専用電話ができました！
お問い合わせは、下記直通電話に直接おかけください。
翻訳・通訳担当者が対応いたします。

翻訳・通訳 直通電話: 080-3315-1752
(月～金 10:00～17:00)

◆文書の翻訳を有料で行っています。

料金・納期・支払い方法等については、上記直通電話におかけください。

《対応可能言語》

中国語・スペイン語・タイ語・ネパール語
ポルトガル語・韓国朝鮮語・ベトナム語
ミャンマー語・タガログ語・カンボジア語
インドネシア語・英語・ラオス語など

《翻訳可能文書》

戸籍謄本・住民票・出生届・婚姻届
出生受理証明書・結婚受理証明書
銀行明細書・課税・納税証明書
雇用証明書など

◆一般通訳を有料で行っています。

市区町村役場・年金事務所・弁護士事務所等同行通訳
詳細については、上記直通電話におかけください。



アクセス



JR根岸線 関内駅南口より徒歩 10分
市営地下鉄ブルーライン関内駅
出口1番より徒歩 5分
みなとみらい線日本大通り駅より徒歩 5分

* 横浜スタジアム向かい

〒231-8458

横浜市中区常盤町1-7 横浜 YMCA 2階

Tel: (045)228-1752 Fax: (045)228-1768

URL: <http://www.sumasen.com/>

Mail: sumai.sc@sumasen.com

ホームページも
ぜひご覧ください！



【編集後記】

つい最近、在日フィリピン人の方の暮らしにかかわる新書を手に入れて読み始めた。日本に暮らしているフィリピンの方や、フィリピンと日本の両方にルーツを持つ若者の話や、国籍の話など、とても興味深い内容で、私の周りにいるフィリピンの方々や、フィリピンで暮らしていた時にお世話になった方々と重なり、夢中で読み進めた。「彼らもこんな気持ちだったのかもしれない」と、心情を想像することの大切さを改めて考えさせられる読書体験だった。(A・N)

